

八戸・久慈自動車道整備促進住民大会 ～地域を支える交流と連携のみちづくり～



待浜小児童の手を取り、整備促進に向けて団結を誓う市町村長

Interview



家族の入院で
必要性を痛感
代表で意見発表した
大崎祐吾くん
(久慈高2年)

家族が入院し、自宅と病院を短時間で移動するには道路が必要だと痛感。みんなが助かるように、早く完成してほしいです。



未来のために
道路つなげて
ポスターで最優秀賞
西村みなみさん
(長内中3年)

道路ができれば人や物の行き来が多くなり、生活ももっと良くなると思います。未来のために、道路をつなげてほしいです。

沿線住民の力が結集。八戸・久慈自動車道整備促進住民大会(八戸・久慈自動車道整備促進住民会議主催)は10月11日、アンバーホールで開催。八戸市から普代村までの沿線6市町村から915人が参加し、道路網が整った安全で安心な未来に向けて一致団

結しました。はじめに待浜小学校の児童6人が「わたしたちの未来を拓く道づくり」と題してメッセージを提唱。山内隆文市長など沿線6市町村長は「共に頑張ることを約束します」と子どもたちの願いに応え、つないだ手を高く掲げました。主催者あいさつでは、実行委員長の北リアスみちづくり女性会の会・大槻静子会長が「命のための道を早期実現するため、今後もしも必要性を訴えていきます」と力を込めました。特別講演では、山内市長が道路がもたらす地域経済や防災、救急医療などへの効果を力説。同大会のポスターコンクール表彰式や、代表2人による意見発表も行われました。最後は道路の早期整備を要

八戸・久慈自動車道整備促進住民大会

未来 に向け一致団結

望する大会決議を参加者全員が拍手で承認し、願いを込めた万歳三唱で大会を締めくくりました。全長約50kmの八戸・久慈自動車道ですが、整備済みの区間は10・4kmのみ。国の関係予算が削減される中、早期整備には地域全体の行動が必要です。今後も道路の必要性を粘り強く訴えていきます。



参加者全員で万歳三唱。団結の力がみなぎります

Information

まちづくり講演会

10/25

14:00～15:30
アンバーホール



講師 **北川正恭** 氏

三重県知事時代に、いち早くマニフェストの導入を提唱。現在は早稲田大学大学院の教授として活躍する北川正恭氏が講師です。市民活動見本市も行います。